



# 「綾門大綱」

アイジューウーナン

一〇九年ぶりの復活で見せた  
首里人の結束と意地！

愛する町のために、地域の元気のために、一生懸命活動している人がいます。このコーナーではそれを「沖縄のげんき仕掛人」と呼び、ユニークな活動を応援していきます！



太鼓や金鼓の音に合わせて乱舞する旗頭



行事の本番前に玉陵前に立つ山城さんと玉那覇さん

首里城の年中行事は百余りあったとされ、未だ再現されていないものも数多く存在します。10月27日、那覇市首里で「綾門大綱」が109年ぶりに復元され、会場付近は1万人もの人々でにぎわいました。この綱曳きの復元に力を注いだ綾門大綱復興・ゆいフェスティバル実行委員会の山城岩夫さんと玉那覇修さんにお話を伺いました。

**山城岩夫さん** (左) 1953年、国頭村辺戸出身。辺土名高校卒業後、東京でデザインを学ぶ。造園設計事務所を運営していたが、首里城復元を機に帰郷。以後、琉球文化の継承に努めている。

**玉那覇修さん** (右) 1960年、那覇市首里当蔵町出身。首里高校を卒業後、家業のガラス店を継ぐかわら、青年会活動で旗頭の保存・継承に努めるなど首里文化の伝承に情熱を燃やしている。

**げんき** 琉球王国時代、国王二世代  
に行われていた「綾門大綱」

「綾門大綱」は琉球王国時代、新国王が即位し、中国から冊封(さつぽう)を受ける祝いと、王国の平和と繁栄、五穀豊穡を願って行われていた綱引きです。綾門とは首里城の「守礼門」と「中山門」の俗称で、光沢のある朱塗りのきらびやかな門を指し、守礼門は上綾門、中山門は下綾門と呼ばれていました。この二つの門の間が綾門大道で、今回の舞台になったところです。この行事は、国王尚泰が冊封を受けた一八六六年の翌年に行われたのが最後でした。明治三十一年に「三平等綱」という名称で一時復元されて以来途絶えていましたが、山城さんから地元のボランティアが復元活動に

**げんき** 復元のため史料収集と  
綱づくりに奔走！

取り組み、四年がかりで今年ようやく実現に至ったものです。きっかけは、那覇大綱曳きから旗頭の出演依頼があった際、古者たちから「首里の旗頭の頂上には、灯りをつけなければいけない」と念を押されたことでした。そこで疑問に思った地元のボランティアが、図書館や博物館で古い文献や新聞を探すと、首里ではかつて夜に綱引き行事が行われ、演舞する旗頭はその照明の役割も担っていたことがわかりました。その綱引きとは、雄綱と雌綱が二本ずつあり、計四本の綱を三頭貫でつなぎ、東側は守礼門から西側は中山門まで、全長二百十六メートル



神秘的な唄で登場した「クエーナ保存会」



東西に分かれて声を上げ、士気を高めた「ガーイー」

**げんき** 首里の誇り高い  
伝統文化と平和への  
思いを次の世代へ

儀式的な演出を数多く含んでいた「綾門大綱」の復元には、多くの人々の協力がありました。「首里クエーナ保存会」もその一つです。クエーナとは雨乞い、五穀豊穡、航海の安全などを願う歌です。テーフィ(たいまつ)の演舞は古武道教室の「文武館」に演出から考えてもらいました。ガーイー(盛り上げ役)には首里高校の生徒たち約百五十名が参加し、盛大な声で綱引きを盛り上げてくれました。

「これまで首里の若者たちは伝統文化を体験する機会が少なく、今回、綾門大綱を体験できたことはとても貴重。みんなが参加し、実感してくれたことで首里の伝統文化の継承につ



「ハーイヤ」と勇壮な掛け声で綱を引く綱方たち

ながると思う」と玉那覇さん。

山城さんは、「綾門大綱はあくまでも平和祈願の綱引き。その趣旨を理解していただき、多くの人々に参加してもらえました。皆さんの、まさに縄を一本一本編んでいくような努力があつて実現できたようなものです。綱引きは一致団結の象徴でもありますが、それを実現できたことが何よりもうれしい」と語りました。

「綾門大綱」は今のところ次回行われる予定はありません。二人は、この行事で得た経験や知識を糧に、これからも伝統文化の継承に努めていきます。

●綾門大綱復興・ゆいフェスティバル実行委員会 ☎098-886-8615

沖縄県広報誌 平成19年12月1日発行第31巻12号通巻387号

**編集後記**

あちこちにクリスマスのイルミネーションが見られるようになり、街はすっかり年末ムードです。皆さんにとって今年はどういった一年でしたか？私はいまだ残ったことがやや多い年だったような気がします。いやいやラスト1カ月、まだまだ間に合う、頑張るぞ！(R)

最近、娘と一緒にリトミック教室へ通い始めました。お歌に合わせて体を動かすのは、ちょっと恥ずかしかったのですが、後半はへばってそれどころじゃありません。終わってひとつ判明、私リズム感ないです・・・(ノア)

企画・編集 沖縄県知事公室広報課  
発行 沖縄県知事公室広報課  
〒900-8570  
那覇市泉崎1-2-2  
電話 (098) 866-2020

制作・印刷  
株式会社エマインタープライズ  
〒900-0006  
那覇市おもろまち1-5-26  
電話 (098) 868-9332

の大綱を東西に分かれて二度引くという「綾門大綱」だったので。復元に向けて、山城さんは儀式の演出から道路使用許可などの調整、玉那覇さんは綱の材料集めに奔走しました。綱引き行事のある地域に出向き、綱づくりから手伝い、行事が終わると綱をほどいて綾門大綱の綱に作りなおしました。大綱の多くは小さな縄を寄せ集めて作られますが、「綾門大綱」の綱は三つの縄の束を手で編んでいきます。「作り方に困ると、真嘉比や城間の綱の作り手の所に行つて何度も教わりました」と玉那覇さん。歴史を紐解きながら準備を重ね、活動は次第に熱を帯びていきました。



たいまつを手に力強い演舞をする「テーフィ」

